

熊 沢 遺 跡

発掘調査概報



平成9年度

青 森 市 教 育 委 員 会

序

北に翠緑の陸奥湾を望み、南には四季折々の美しい装いを魅せる八甲田山をいただく青森市には、古く縄文の時代から現在まで数千年の長きにわたり、多くの人々が様々な生活を送り、彼らは数多くの歴史を残してくれました。

現在青森市には、そのような埋蔵文化財包蔵地が数多く所在しており、私たちは彼らにしえ人の足跡を、貴重な文化遺産として目にすることができます。

今年度、当委員会では、東北縦貫自動車道八戸線建設工事に係わる、熊沢遺跡の発掘調査を実施いたしました。

この熊沢遺跡は、昭和52年度にも青森県教育委員会によって発掘調査が実施されており、当時の調査で縄文時代の集落跡と捨て場を検出しております。

今年度の調査では、縄文時代の捨て場から多量の土器、石器が出土し、本市の歴史に新たな1ページを書き加えることができました。

今年度その調査成果を、研究者はもとより市民の皆様により親しみやすい発掘調査概報として刊行することといたしました。文化財の保護・活用、歴史学習等にいささかでも役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、調査員、関係機関並びに各位からのご指導、地元町会からのご理解・ご協力につきまして、厚くお礼申し上げます次第です。

平成10年3月

青森市教育委員会

教育長 池田 敬

例 言 目 次

1. 本書は、青森市教育委員会が平成9年度に実施した東北縦貫自動車道八戸線(青森～青森)建設工事に係る熊沢遺跡発掘調査の概報である。
2. 熊沢遺跡の遺跡番号は01055である。
3. 本書は概要報告書であり、調査全体の報告については平成10年度に調査報告書を刊行する予定である。
4. 本書は、調査担当者である沼宮内陽一郎が執筆した。
5. 調査の実施にあたって次の機関からご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表する。
青森県教育庁文化課・八戸工業大学・奈良教育大学

序	
例言	
目次	
はじめに	
熊沢遺跡とは	
今年度の調査から	
捨て場	4
ピット群	5
集石遺跡	5
土器	7
コラム 縄文土器の原体	8
石器	9
土製品	9
まとめ	10

はじめに

青森市から、関東までを南北に貫く東北縦貫自動車道は、昭和61年7月30日の全面開通以来、首都圏、またその他の主要都市と本市を結ぶ経済、流通、観光ルートとして重要な路線の一つとなっています。

しかし、これまで青森～八戸をダイレクトに結び、さらには青森市、八戸市、弘前市とその近隣の市町村を短時間でひとつに結ぶ路線は、存在していませんでした。

そこで日本道路公団では、この3市及び近隣の市町村をひとつのリングで結び、経済、流通のさらなる発展と活性化を図り、観光ルートとしての利便性の向上のため東北縦貫自動車道八戸線建設を計画しました。

しかし、建設予定地内には熊沢遺跡が所在していたことから、日本道路公団と県文化課でその対応について協議した結果、熊沢遺跡の記録保存を前提とした発掘調査が必要となり、青森市教育委員会にその調査が依頼されました。

青森市教育委員会では、埋蔵文化財保護と開発事業との円滑な調整を図るため、調査を受諾し、平成9年度、発掘調査を実施することとしました。

発掘調査は、平成9年6月4日から9月5日までの3カ月間にわたり、調査の結果、いまから約5,500年前の縄文時代前期の捨て場、ピット群、集石遺構を検出し、ダンボール200箱を越える驚くほど大量の土器や石器が出土しました。

そこで当委員会では熊沢遺跡の調査結果について、埋蔵文化財保護行政の一環として、青森市の歴史の1ページを、本市はもとより多くの方々に理解していただき、郷土の歴史に少しでも造詣を深めていただきたく、発掘調査概報として刊行することといたしました。



熊沢遺跡（上空から）

熊沢遺跡とは

熊沢遺跡は、青森市街の南西部、東北縦貫自動車道青森料金所から500mほど南下した沖館川上流の西岸、標高20m～40mの丘陵地上に立地しています。

遺跡周辺の地形は、谷によっていくつもの小丘陵に分けられており、時期は、縄文時代前期中頃、今から約5,500年前の集落跡です。周辺に所在する同時期の遺跡として、三内丸山遺跡・三内沢部(1)遺跡・近野遺跡などがあります。

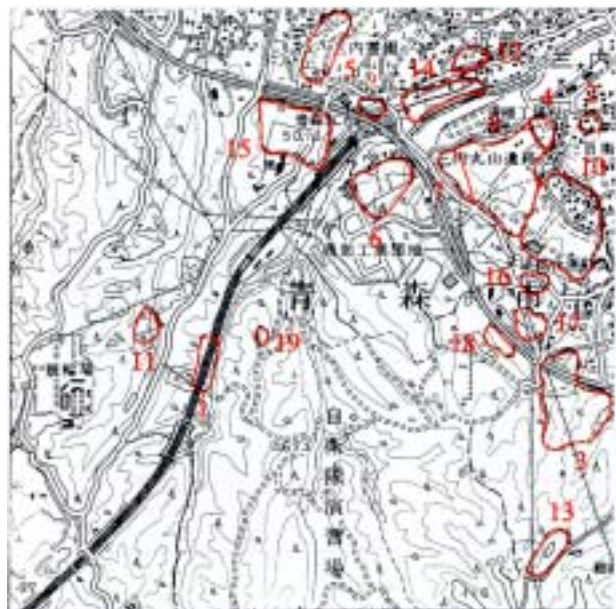
本遺跡は、昭和52年度にも発掘調査が実施されており、当時の調査では竪穴住居跡、土坑とともに、大量の土器や石器などの遺物が廃棄された捨て場を検出しました。

今年度は、6月4日から9月5日までの約3ヵ月間にわたり発掘調査を実施しました。

調査対象面積12,400m²に対して試掘調査を行ったところ、調査区北側の畑の下から大量の土器や石器が出土しましたが、調査区北側の沢を境とした南側一帯は、遺物の出土量が非常に少なく散発的で、遺構も検出ませんでした。そのため、調査の重点を北側の捨て場に置き調査を進めた結果、大量の土器や石器が出土し、その下の層から、集石遺構とピット群を検出しました。

また、南側では遺物の出土量は少なかったものの、東側に向かう急斜面の途中から多量の土器がまとまって出土しました。

今年度の調査によって検出した捨て場は、昭和52年度の調査で検出した捨て場の続きと思われる、出土遺物も、当時の調査で出土した土器と同時期のものです。



第1図 熊沢遺跡と周辺の遺跡

番号	遺跡名	時代
1	熊沢遺跡	縄文(早・前・中・後)
2	浪館(1)遺跡	縄文(前)
3	安田(2)遺跡	縄文(前・中)
4	小三内遺跡	縄文(前・中・晩)
5	三内霊園遺跡	縄文(前・中)
6	三内遺跡	縄文(早・前・中・後)
7	三内丸山(1)遺跡	縄文(前・中・後)、平安
8	三内丸山(2)遺跡	縄文(前・中・後)
9	三内沢部(1)遺跡	縄文(草・早・前・中・後・晩)、平安
10	近野遺跡	縄文(前・中・後・晩)平安
11	新城平岡遺跡	縄文
12	三内沢部(2)遺跡	縄文(中)
13	栄山(4)遺跡	平安
14	三内沢部(3)遺跡	縄文・平安
15	三内沢部(4)遺跡	平安
16	三内丸山(3)遺跡	平安
17	三内丸山(4)遺跡	縄文(前・中)
18	三内丸山(6)遺跡	縄文(中・後)、平安
19	岩渡小谷遺跡	縄文(前・中)平安

検出遺構

捨て場

調査開始時の調査区北側の状況は、約20m×5mほどのほぼ平坦な狭い畑でした。土器や石器などの遺物が出土する土層や、遺物出土量の確認のため、部分的に試掘を行ったところ、畑の耕作土の下から土器や石器が出土してきました。

さらに調査を進めていったところ、遺物の出土する土層は深い所で約1.5mの厚さになることがわかり、遺物もかなりの出土量が予想されました。また、以前調査がおこなわれたときに検出した捨て場の続きであると思われたため、試掘から全面調査に変更し、作業を進めました。

遺物が最も多く出土する層は、第 層です。この層は、ロームといわれる黄色い火山灰が多量に混入しているため、上下の第 層、第 層よりも土色が明るくなっています。このことは、第 層は人為的に堆積した層の可能性があり、当時捨て場に遺物を廃棄していた人々が、竪穴式住居や土坑を掘った際にでた排土も一緒に投げ捨てたことが一つの可能性として考えられます。

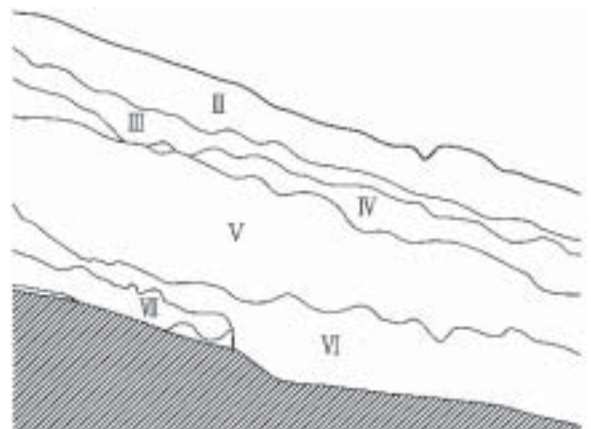
畑を全面的に掘り下げていくと、畑の南側よりも、北側の以前調査が行われたときに検出した捨て場に近づくにつれて、遺物の出土量が多くなっていくことを確認できました。



第2図 遺構配置図



捨て場の様子



第3図 土の堆積の様子

また、調査を進めていくうちにこの捨て場は、東側へ向かって傾斜する、人が立つことも困難な急斜面に立地することがわかりました。斜度の違いはありますが、縄文時代の捨て場は斜面に立地することが多いようです。

遺物の出土状況は、大量の土器片が散乱するような状態で出土しました。なかには写真のように、一個体のまま倒立したような状態で出土したり、破片となっていますが、ある程度同一個体と思われる土器片がまとまって出土した例もあります。多くの土器は、縄文時代前期中頃の円筒下層式土器です。

土器以外にも、剥片（石器を製作したときにできた破片）・石鏃・石匙など、当時の人々が利器として用いていたと思われる石器や、土製品が出土しました。

今回調査した捨て場は、以前調査が行われた捨て場の続きにあたる部分であることから、面積も約820m²と狭い面積でしたが、ダンボールで約190箱もの大量の遺物が出土しました。

この捨て場から南へ約100m離れた地点からも捨て場を検出しました。

この捨て場は、東側へ向かって傾斜する急斜面の途中の平坦な面に立地していました。

土器が出土した土層は、厚い土層ではなく北側の捨て場と比較すると小規模な捨て場と思われましたが、その先の東側は削平されており全貌は不明です。

土器の出土状況は、北側の捨て場と異なり、約30個体ほどの同一個体の土器がその場で潰れたように出土しました。



土器が出土した様子

ピット群

北側の捨て場の下やや平坦な場所から、ピットを11基検出しました。

正確な時期は不明です。規模は、直径20cm～25cm、深さは15cm～50cmです。

他の遺跡からの検出例では、配列等から掘立小屋等の柱跡と思われるものもありますが、本遺跡から検出したピット群の用途については現在のところ不明です。



ピット群

集石遺構

同じく北側の捨て場の下斜面上から集石遺構を1基検出しました。10cm～15cm程度の石が11個ロームの直上に置かれていました。集石遺構についても正確な時期は不明です。



集石遺構

出土した遺物

土 器

今年度の調査では、調査区全体から段ボールで200箱を越える遺物が出土し、そのうちの9割以上にあたる約190箱が土器です。

土器のほとんどが2つの捨て場からの出土で、9割以上の土器が、今から約5,500年前の縄文時代前期中頃の土器です。その他には、前期中頃よりも古い縄文時代前期前半（約6,000年前）の土器、前期よりも新しい縄文時代後期（約4,000年前）の土器が少量ながら出土しています。

縄文時代前期から中期にかけて、北海道南部から東北地方北部を中心に、円筒形をした土器を伴う円筒土器文化が繁栄しました。青森県は円筒土器文化期に属する遺跡が、他県に比べ高密度に分布しています。

縄文時代前期中頃から現れるこの円筒土器は円筒下層式土器から始まり、基本的な形はバケツを上下に細長くした様な形です。時期が新しくなるに従って、口の部分が湾曲して開き小さな突起が現れたり、粘土紐の装飾がつけられます。さらに縄文時代中期（約5,000年前）の円筒上層式土器になると、口の部分の小さな突起がさらに大きくなり把手がつけられたり、粘土紐の装飾も一層華やかになり文様も派手になりますが、中期中頃になると、粘土紐の装飾や文様が徐々に簡素になるという変化をたどります。

熊沢遺跡から出土した土器は円筒土器でも古い方にあたる、円筒下層式土器です。その円筒下層式土器の中でも古い時期にあたる、円筒下層b式土器が主に出土しています。



捨て場の様子



縄文時代後期の土器



熊沢遺跡から出土した土器

土器に施されている文様は、縄を撚ったものを転がした
もの、縄を棒に巻き付けたものを回転させて文様を施し
たものなどがあります。これら数種類の文様を組み合わ
せさらに、口の部分と胴部で文様を分けたもの、あるい
は、口の部分と胴部に粘土紐をはりつけて文様帯を分け
たものがあります。これらの土器は、昭和52年度の発掘
調査でも大量に出土しています。

またその他にも、粘土紐を積み上げて作った小型土器
も出土しています。



小型土器

コラム 縄文土器の原体

縄文時代の土器には様々な文様が施され、それぞれの
時期によって流行があるようで、施される文様が異なり
ます。縄文時代早期には貝殻の縁辺を用いた文様や、後
期には竹管などで沈線だけが施されていたりと、施文具
も色々なものを用いていましたが、最も縄文人が好んだ
と思われるものは、縄の文様でした。

熊沢遺跡から出土した円筒下層式土器には、様々なバ
リエーションの縄の文様が施されています。

ここでは、主に竹管などに縄を巻き付けた原体（絡条
体）を紹介します。

熊沢遺跡から出土した円筒下層式土器にもここに紹介
した文様が施されたものもあります。



石 器

熊沢遺跡からは、石鏃、石匙、磨製石斧、半円状扁平打製石器などが、主に北側の捨て場から出土しています。

石鏃は、縄文時代を通して狩猟に使用されていました。先端が尖るという基本的な形には大きな変化はありませんが、矢柄に装着する部分は、突起があるもの、突起がなく平基のものなど幾つかの形態があります。熊沢遺跡からは、平基の石鏃が多く出土しています。

石匙はナイフにつまみが着いた形をしており、物を切る作業に使用したと思われます。刃部には油脂などによると思われる光沢を有するものもあります。

半円状扁平打製石器は、直線状の底辺に擦りの痕跡がありますが、正確な用途ははっきりしていません。



石鏃・石匙



磨製石斧・半円状扁平打製石器

土製品

熊沢遺跡からは、有孔土製品（垂飾土製品）といわれる土製品が出土しています。

縄文時代の土器のほとんどが粘土紐を輪にして積み上げて作られるのに対して、この土製品は、粘土塊を手捏ねで形作っています。

上部が波形を呈し、底部が尖った形をするものと、底部が平坦なものがあります。

波形の上部には焼く前に穴が穿けられており、写真の底部が平坦なものは、ほぼ完形品で、穴が2つ穿けられていますが、穴が穿けられている部分を観察すると、2回に分けて穿けられた穴ではなく、一度に2つの穴を貫通させたことがわかります。

以前の調査では、赤色顔料が付着したものが出土しましたが、今回の調査では出土しませんでした。

以前の調査で出土した赤色顔料が付着したものの存在などからこれらの土製品は、日常生活で使用されたものではないと思われます。



有孔土製品（垂飾土製品）



穴が空けられた様子

ま と め

熊沢遺跡は、縄文時代前期中頃から始まる円筒土器文化圏に属する集落跡です。

昭和52年度に青森県教育委員会によって発掘調査が実施された当時は、遺跡西側の傾斜の緩い斜面から住居跡14軒をはじめとした各種遺構を検出し、東側の急斜面の捨て場から段ボール約500箱にもなる土器や石器が出土しました。

今年度の調査では、縄文時代前期中頃の捨て場と11基のピットからなるピット群、1基の集石遺構を検出し、捨て場からは、縄文時代前期中頃の円筒下層式土器を主体とする土器や、石鏃や石匙などの縄文時代の石器などが段ボールで約190箱出土しました。

今年度の調査により検出した捨て場は、昭和52年度の調査によって検出した捨て場の続きにあたりますが、単位面積あたりの平均遺物出土量が、以前の調査よりも少ないこと、今年度検出した捨て場は南側に進むにしたがって遺物の出土量が少なくなっていくことから、熊沢遺跡の捨て場の南側の範囲を確認することができました。この捨て場は、人が立っていることも困難なほどの急斜面を利用しており、遺物が捨てられていた土層の厚さは、最も厚いところで約1.5mにもなります。

ピット群や集石遺構の明確な構築時期は明らかではありませんが、捨て場が形成される以前に構築された遺構であると思われます。

捨て場を検出した以外の調査区からは、捨て場から100m程離れたところから、時期を同じくする円筒下層b式の土器を主体とする小規模な捨て場を検出したのみでした。遺構の検出はなく、遺物は縄文時代後期の土器片が散発的に出土する状況であり、集落範囲の南側への広がりはないものと思われます。

遺跡の東側は沖館川の上流部となっており、現在の川幅は2m程の小さな川ですが、縄文時代当時にこの川が現在よりも豊かな水量をたたえていたとすれば、熊沢遺跡に生活していた人々は、水場に近いという恵まれた環境の中で生活を営んでいたことも考えられます。



発掘作業風景

報告書抄録

ふりがな	くまのさわいせきはくつちようさがいほう							
書名	熊沢遺跡発掘調査概報							
副書名								
巻次								
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第42集							
編著者名	沼宮内 陽一郎							
編集機関	青森市教育委員会							
所在地	〒030-8555 青森県青森市中央一丁目22-5 TEL 0177-34-1111							
発行年月日	西暦 1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くまのさわ 熊沢	あおもりけんあおもりし 青森県青森市 岩渡字熊沢	02201	055	40°	140°	19970604	1,320	道路建設（東北縦貫自動車道八戸線 青森～青森間建設工事）に伴う事前調査
				47	40	19970905		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
熊沢	集落跡	縄文	捨て場 小ピット 集石遺構	1箇所 11基 1基	土石	石器		

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962 『三内霊園遺跡調査概報』	青森市埋蔵文化財調査報告書
''	2	1965 『四ツ石遺跡調査概報』	'' 第22集 1994 『小三内遺跡発掘調査報告書』
''	3	1967 『玉清水遺跡調査概報』	'' 第23集 1994 『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』
''	4	1970 『三内丸山遺跡調査概報』	'' 第24集 1995 『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』
''	5	1971 『野木和遺跡調査報告書』	'' 第25集 1995 『市内遺跡詳細分布調査報告書』
''	6	1971 『玉清水 遺跡発掘調査報告書』	'' 第26集 1995 『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』
''	7	1971 『大浦遺跡調査報告書』	'' 第27集 1996 『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』
''	8	1973 『孫内遺跡発掘調査報告書』	'' 第28集 1996 『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』
		1979 『蚩沢遺跡』	'' 第29集 1996 『市内遺跡詳細分布調査報告書』
		1983 『四戸橋遺跡調査報告書』	'' 第30集 1996 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
青森市の埋蔵文化財	1983	『山野峠遺跡』	'' 第31集 1997 『市内遺跡詳細分布調査報告書』
''	1985	『長森遺跡発掘調査報告書』	'' 第32集 1997 『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』
''	1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』	'' 第33集 1997 『新町野遺跡発掘調査報告書』
''	1987	『横内城跡発掘調査報告書』	'' 第34集 1997 『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
''	1988	『三内丸山 遺跡発掘調査報告書』	'' 第35集 1997 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書			'' 第36集 1998 『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』
''	第16集	1991 『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』	'' 第37集 1998 『新町野遺跡発掘調査報告書』
''	第17集	1992 『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』	'' 第38集 1998 『野木遺跡発掘調査報告書』
''	第18集	1993 『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』	'' 第39集 1998 『市内遺跡詳細分布調査報告書』
''	第19集	1993 『市内遺跡発掘調査報告書』	'' 第40集 1998 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
''	第20集	1993 『小牧野遺跡発掘調査概報』	'' 第41集 1998 『野木遺跡発掘調査概報』
''	第21集	1994 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	'' 第42集 1998 『熊沢遺跡発掘調査概報』

青森市埋蔵文化財調査報告書 第42集

熊沢遺跡発掘調査概報

発行年月日 平成10年3月31日

発行 青森市教育委員会

〒030-8555 青森市中央一丁目22-5

TEL 0177-34-1111

印刷 東北印刷工業株式会社

〒030-0920 青森市合浦一丁目2-12

TEL 0177-42-2221